

令和5年度保育士自己評価

保育所保育指針では「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士などの自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容などについて自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき当園では毎年自己評価をしております。
評価の結果を踏まえ今後もよりよい保育を提供できるよう努力していきます。

<評価について>

評価にするにあたっては以下のようなチェックリストで評価しました。

自己評価対象	評価	評価と課題
第1章 総則 教育・保育の基本 (93項目)	81%	前回と比較すると、同じところがポイントが下がっている。育みたい3つの資質能力と10の姿は日頃保育の中で、遊びを通して行っていることである。それぞれが認識して保育を行う中で具体的な姿を説明できるようになっていくこと。
1. 教育・保育の基本 (14項目)	85%	
2. 教育及び保育の配慮 (14項目)	88%	
3. 教育課程・全体的な計画、指導計画作成と評価 (35項目)	82%	
4. 特別支援教育・障害児保育 (9項目)	75%	
5. 「育みたい3つの資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」(7項目)	54%	
6. 子どもの発達 (14項目)	95%	一人ひとりを大切に、丁寧に保育している結果が出たように思う。常に、発達の個人差を踏まえて保育していくことが必要。
第2章 「ねらい」及び「内容」 (190項目)	91%	
1. 乳児保育に関わるねらい及び内容 (30項目)		
(1) 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」	96%	
(2) 社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」	98%	
(3) 精神的発達に関する視点「身近なものに関わり感性が育つ」	95%	
2. 1歳児以上3歳児未満の保育に関わるねらい及び内容		0歳児から2歳児までは、個別の指導計画を立て、発達に応じた支援をしていると思う。保育環境がマンネリ化しないよう、発達に合わせた環境を準備していく。
(1) 健康 (10項目)	99%	
(2) 人間関係 (10項目)	96%	
(3) 環境 (10項目)	91%	
(4) 言葉 (10項目)	98%	
(5) 表現 (10項目)	96%	
3. 保育の実践に関わる配慮事項（乳児・1歳以上3歳未満児）(10項目)	92%	これまでの発達の積み重ねがこの時期に大きく作用してくることを踏まえ、個から集団へと向うことを急がせすぎないよう配慮する。声掛けがいそいでや早くになってしまわないよう、保育者も気持ちに余裕をもつこと。
4. 3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容		
(1) 保育内容「健康」(20項目)	95%	
(2) 保育内容「人間関係」(20項目)	89%	
(3) 保育内容「環境」(20項目)	80%	
(4) 保育内容「言葉」(20項目)	96%	
(5) 保育内容「表現」(20項目)	83%	
第3章 健康および安全 (49項目)	87%	コロナも5類に移行したが、感染症に対しては今後も、緊張感をもって対策に取り組んでいく。計画的に避難訓練など行った。消防や警察関係に依頼し訓練も行った。
1. 健康支援 (14項目)	83%	
2. 食育 (11項目)	96%	
3. 環境・衛生管理・安全管理 (11項目)	84%	
4. 災害への備え (13項目)	82%	虐待等の発見・通告の体制をひとり一人がきちんと把握できるように再確認する。研修などもコロナが5類になり集合研修など
第4章 子育て支援 (18項目)	75%	
1. 園児の保護者に対する子育て支援 (10項目)	88%	
2. 地域における子育て支援 (8項目)	69%	
第5章 職員の資質向上 (15項目)	77%	
合計 (365項目)	87%	

(総評)

- ・毎年の自己評価を行うことで一人一人の保育の振り返りと、保育の見直しになっている。評価が下がっているを見極める。
- ・コロナも5類になり、控えていた行事等もおおよそ再開できるようになったが、基本的に行事の見直しにもつながった。
- ・乳児保育及び3歳未満児保育においては、これからもきめ細かな保育が繋がっていくよう、次年度に移行するときは担任間での申し送りを時間をかけてしている。これからも一人一人を大切に保育していくためにもきちんと継続していく。
- ・不適切保育や安全管理などいろいろな社会問題にもなっているが、今やっていることや当たり前になっていることを今一度振り返り、子どものかかわり方、声のかけ方を丁寧に見直したい。そのためには、保育自身に気持ちのゆとりをもてるような環境づくりが必要とも思われる。